

【アピール】

戦争法を廃止させ、憲法改悪を許さず、憲法を守り活かすために、
一人ひとりが主権者として行動に立ち上がろう！

組合員のみなさん

私たちは「命を守る仕事を担う福祉労働者」として、戦争法案を成立させないために多くの国民とともに全力でたたかってきました。それでも、『戦争法』は、自民・公明の与党とそれに取り込まれた野党によって、数の力で強行採決・成立させられました。

それでも、私たちはたたかひのなかで

「民主主義ってなんだ？」と叫ぶ若者たちの思いと熱気を肌で感じ、

「だれの子どものころさせない」と訴えるママたちの生の声に耳をかたむけ、

国会審議でごまかしの答弁を繰り返す安倍首相の言葉に怒りでふるえました。

「戦争は人間の命と尊厳を奪う、福祉と対極にあるものだから認めるわけにはいかない」

「平和のうちに生きる権利と民主主義を壊す『戦争法案』は許さない」

その思いを胸に、職場・分会で学習を重ね、地域での集会やパレードに参加して自ら声をあげてきた仲間の姿が、私たちの身近なところがありました。同時に、職場や地域には、同じ思いを持ちながらも日々の業務や生活に追われて忙しく、具体的な行動への一歩が踏み出せなかったことを残念に思っている仲間もいるはずです。

私たちは、このたたかひをとおして自らが声をあげ行動することで変化をつくりだせることを学びました。だから、「わたしが政治の主体者なのだ」と気づいた人々は、あきらめるところか、たたかひへの熱い思いをさらに強めています。

「民主主義と立憲主義を踏みにじる法律を作った人たちに、後悔させるたたかひ」

「平和に生きる国民の権利を奪うことに鈍感な人たちに、命の尊さを気づかせるたたかひ」

私たちの手に憲法と民主主義を取り戻すたたかひは、これからはじまるのです。

全国各地では、すでに多くの人たちによって新たなたたかひが生まれ、広がっています。

組合員のみなさん

「子どもたちがすくすくと育つことのできる」

「障害があってもいきいきと働きらせる」

「歳をとっても尊厳をもって生きられる」

そんな社会をつくっていくことは、私たち福祉労働者みんなの一致する願いです。

そのためには、憲法の理念である平和・基本的人権・民主主義を守らなくてはなりません。

福祉保育労が掲げる「平和こそ最大の福祉」は、憲法の理念を社会福祉に生かす言葉なのです。

安倍首相がごまかし続け、真実を語らないなら、私たち一人ひとりが『戦争法』の内容を学んで、その危険性を自分の言葉にして語っていきましょう。

自ら考えて判断し、自分の言葉として『戦争法』を廃止せよ」「憲法を壊す安倍政権は退陣せよ」という声をひろげ、「憲法を守り活かそう」という思いを共有していきましょう。

職場・地域の人々とながら、思いを伝え広げていくために、どんなことができるのかを相談しながら、具体的な行動に立ち上がりましょう。

行動の一つひとつを積み重ねることで、私たち福祉労働者が本当の意味での主権者であることを自覚し、その力を組合に結集させて大きな団結力に育て、戦争法と憲法改悪に立ち向かっていきましょう。

2015年10月

全国福祉保育労働組合中央執行委員会